

大歩危リバーフェスティバル 2022

(ワールドマスターズゲームズ関西プレ大会)

安全規則及び競技規則

大歩危リバーフェスティバル実行委員会

ラフティング（ダッキーなど含む）レースは、自然の河川をフィールドに開催される競技である。その為、自然の川（川岸やその周辺を含む）には、その全てにおいて安全を保証された場所はどこにも存在しないという絶対的な事実がある。

参加する選手はその事を十分に認識することが重要であり、また大会主催者は参加する選手に対し「自分の安全は自分で守る（セルフレスキュー）」という基本原則の周知徹底を図る必要がある。

その上で、大会運営においては大会主催者及び参加者は、想定されるリスクを考え十分な安全確保をしてレースに臨むことが大切である。

そのために大会開催においては、レース前の準備を含め、レースに関してのスタッフ・選手の安全面を統括する「セーフティーディレクター（安全管理責任者）」を設けることが望ましい。

そして大会においてはセーフティーディレクターを中心としたセーフティーチーム（レスキュースタッフ）を編成し、レースに関しての安全面を可能な限り最大限に確保することを最優先する必要がある。

【セーフティーディレクター】

(1) セーフティーディレクターとは

- 1) 大会開催においてレース前の準備を含め、レースに関してのスタッフ・選手の安全面を統括する「安全管理責任者」のこと。
- 2) セーフティーディレクターは、大会責任者、競技責任者とは別に設けることが望ましい。ただし、小規模な大会においては、大会責任者、競技責任者及びセーフティーディレクターと同一人物が兼ねることもあり得る。

- 3) 大会運営においてはセーフティーディレクターを中心としたセーフティーチーム（レスキュースタッフ）を編成し、レースに関しての安全面を可能な限り最大限に確保することを最優先する。
- 4) セーフティーディレクター、セーフティーチームにはリバーガイドで尚且、レスキュー3などの急流救助活動講習の受講経験がある者が望ましい。

(2) セーフティーディレクターの役割

- 1) セーフティーディレクターは、レースディレクター(競技管理責任者)の直属（場合によっては兼務）であり、競技中の安全を担当する。
- 2) セーフティーディレクターは、危険な状況または危険な可能性のある状況が発生したと判断した場合、または川の水位があらかじめ設定された安全でない水位に達した場合には、競技を直ちに中止するよう要請することができる。
- 3) セーフティーディレクターは、大会組織委員会とともに、リスク・アセスメントおよび安全・救助計画の実施に責任を負う。
- 4) セーフティーディレクターは、競技者のセルフレスキュー能力を確認する権利があり、大会規則に定義されている最低限の期待事項に従うことができない競技者を失格とすることができる。
- 5) セーフティーディレクターは、競技者のパドリング技術をテストすることができ、レースコースで要求される流れをパドリングするために必要な最低限の技術を持っていない競技者を失格とすることができる。しかしテスト後、セーフティーディレクターが競技者のスキルに疑問を感じた場合において、競技者がその判断に同意できない場合には再テストを要求することができる。
- 6) セーフティーディレクターは、競技者が大会規則に違反すると判断した場合には、その競技者に対し出場停止を勧告するという判断を行うことができる。
- 7) セーフティーディレクターは、レースディレクターとともに、安全上の理由からスタートとフィニッシュの位置を変更する権利を有する。

【救助・監視体制】

- (1) レスキューボート

- 1) 大会会場付近にはレスキューボートを配置し、競技中及びその前後に救助の必要が発生した場合は速やかにこれに従事する。
- 2) レスキューボートには救命具、レスキューロープを装備し、事故発生時等には救助活動をする。

(2) その他

- 1) 競技実施中は水上、陸上にレスキュースタッフを配置して付近の監視を行う。
- 2) 水上スタッフは携帯電話にて陸上スタッフと常に連絡が取れるようにする。
- 3) レスキューボートは当日朝から、水上イベント終了まで配置する。

【安全管理・安全対策】

(1) 会場設置一般事項

- 1) 安全管理・安全対策に基づき、事故の防止に細心の注意を払う。
- 2) 参加者にはライフジャケットの着用を義務付ける。
- 3) 実施場所には救急用具、保護具を備え、スタッフへ使用方法を周知する。
- 4) 天候、水量の状況を常に把握し、各種警報、注意報が発令されたときは、直ちに対策を講ずる。大会期間中、警報が発令された場合は大会中止とする。また、この基準に達しないときでも状況に応じて中止する。
- 5) 大会実施中に事故やその他異常事態が発生したときには、関係先に速やかに連絡する。

(2) 天候判断

- 1) 天候、水位状況の早期入手に努め、参加者の安全を優先する。中止はセーフティーディレクターとレースディレクターが協議し、実行委員長が最終判断する。
- 2) 状況によりタイムスケジュール、実施内容の変更等適宜対応する。
- 3) 中止等の場合は、大会本部から関係先に連絡する。

(3) 地上安全

- 1) 不慣れな場所での行動について、参加者へ事前に周知を図る。とりわけボートへの乗り降りについては注意を喚起する。
- 2) コース全域における道路から各激流・川岸へアクセスできるポイントを記した「大会コースマップ」を作成する。各アクセスポイントには、共通の番号・名称を明記する（認識の簡素化）。
- 3) 「大会コースマップ」には、非常時連絡先（大会本部・スタッフ・消防・警察など）も記載しておく。
- 4) 大会前にレースが開催される地元地域の消防署、警察署、河川管理者、地域住民への連絡を徹底する。大会コースマップ・日程を渡しておく。

（４）水上安全

- 1) 危険個所にはレスキュースタッフを配置し、競技中及びその前後に救助の必要が発生した場合は速やかにこれに従事する。
- 2) 大会前日（可能であれば当日の早朝など）にはセーフティディレクター及びレスキュースタッフは、コースの下見を実際にボートで降下して実施する。
 - A) 川の流れ、障害物など、何か変化はないか？異常はないか？入念にチェックする。
 - B) 何か気付いた点があれば「セーフティディレクター（安全管理責任者）」に報告し、対策を講ずる。危険箇所がコース内にある場合は排除または共有する。
- 3) 危険個所については事前に参加者への周知徹底を図る。

（５）参加者

- 1) 参加選手はライフジャケットの着用を義務付ける。これを守れない場合は乗艇できないものとする。
- 2) 飲酒状態での参加は認めない。

（６）その他

- 1) 大会本部、セーフティディレクター、各レスキュースタッフなどの連絡網（携帯番号など）を確実に構築しておく。緊急事態にすぐに連絡し対応できるようにする。

- 2) 万が一、レース中に事故が発生した場合のシミュレーション（連絡のとり方、移動手段など）を大会本部やレスキュースタッフなどを含めた全ての大会スタッフで入念に確認する。
- 3) レースが行われる河川において、増水時と減水時に予想されるリスクを把握し、その情報共有と告知を徹底する。

【競技実施中の安全対策】

(1) レース当日の情報収集

- 1) 気象情報（特に降雨・雷・強風など）を把握しておく。
 - 2) レース当日の水位、上流にダムがある場合は、放水情報を把握しておく。
- (2) セーフティディレクターは、以下の事項を中心に大会の安全管理を行う。
- 1) 事前に入手した情報を基に、転覆・落水のリスクのある箇所を把握すること。
 - 2) 転覆・落水のリスクが考えられる激流・場所には、必ずレスキュースタッフを配置すること。
 - 3) 安全面に懸念がある場合に、コースの変更・中止を競技責任者に申し入れをすること。
 - 4) 大会当日に全選手向けのセーフティブリーフィング（安全説明）を確実に行うこと。
またセーフティブリーフィング（安全説明）の際には、選手からの意見・要望も確認し、必要であればあくまでも安全を最優先しながらも、コース変更など柔軟に対応する。
 - 5) 選手が使用する道具の安全チェックを自らの指示・判断のもと、安全知識のあるスタッフによって、行わせること。なお、特に以下の点を留意する。
 - A) レースに使用する機材(ボート・ヘルメット・PFD・パドル・スローバッグ・フリップライン・服装・シューズ・ホイッスル・リバーナイフなど)は適切なものを保持しているかをチェックする。
 - B) 特に選手が使用するボートには選手自身を拘束する可能性があるもの（ロープ・ストラップなど）がないか入念にチェックする。
 - 6) 選手に対し、もし事前にコース上に危険箇所を発見した場合、レース開始前に大会主催者及びセーフティディレクターに知らせる事を周知徹底する。必要があれば、キ

ャプテン会議などの開催を求め、参加選手に情報共有すること。

- 7) 配置したレスキュースタッフ（誰・場所）は、大会本部で必ず把握しておく。
- 8) レスキュースタッフは、必ず連絡手段（携帯・無線など）を保持しておく。
- 9) より安全性を高める為に最後の選手がスタートした直後からそれを追走しながらコース全体の安全を確認していく救助用ボート（セーフティラフト・カヤック・ダッキーなど）を配置しておく。
- 10) 大会においては可能な限り看護師資格を有するスタッフを配置する。
- 11) 大会においては可能な限り AED（自動体外式除細動器）を用意（レンタルなど）しておく。
- 12) レース当日の体調管理は正しく行うこと。レース直前、及びレース中のアルコールの摂取は厳禁とし、またレース前日の過度なアルコールの摂取も厳禁とする。
- 13) ダウンリバー競技において主催者の目が届かない中でも緊急時に主催者と参加者の連絡がつくように携帯電話の所持を推奨する。
- 14) 選手が自らファーストエイドキットを携行することを推奨する。
- 15) 大会において、もし事故が発生した場合には、以下の情報を可能な限り詳細に把握しその記録を保存すること。
 - A) 事故発生現場の正しい位置・箇所・状況（水位・天候など）
 - B) 事故発生時刻
 - C) 実際に行われたレスキュー活動の詳細（経過時刻含め）
 - D) 事故発生の要因・原因
 - E) 事故、レスキュー活動に関わった人物
 - F) 事故、レスキュー現場を目撃した人物

【競技規則】

(1) チームの構成

- 1) チームの構成人数は4～8名とする。

- 2) チーム内に最低1名リバーガイドを含めること。もしくは、競技コースを安全に航行する技能がある者を含めること。なお、大会主催者が安全な航行ができないと判断した場合には競技への参加が制限されることもある。
- 3) 参加チームの選手名簿にある人員の交替は届出なく変更することが可能である。
- 4) 各チームには、チームの代表権を有するキャプテンを1名置き、大会期間中の連絡事項をチーム員に連絡し、スムーズな運営に協力する。

(2) 参加資格

- 1) 各チームの構成者は、競技コースを安全に航行する技能がある者であること。各チームのキャプテンがその責任に於いて、これを認めたものに限る。なお、大会主催者が安全な航行ができないと判断した場合には競技への参加が制限されることもある。
- 2) 参加者は大会期間中、体調管理に努め万全のコンディションをもって競技に参加すること。体調不良などで参加が厳しい場合は、大会主催者側から競技への参加が制限されることもある。

(3) 大会期間中の事故等の責任

- 1) 参加者は、大会期間中の行動を自身の責任で行い、主催者やチームキャプテンにその責任を問わない。
- 2) 参加者は自身の責任で参加すること。イベントスポンサー、主催者、レースオフィシャルのいずれも、競技中に発生した事故や損害について責任を負わない。イベントスタッフおよび競技者を含むすべての参加者は、事故や損害のリスクを最小限にするために、常に安全を意識して行動する義務がある。

(4) 競技に使用する機材についての規定

すべての競技者は、自分の個人的な安全装備を用意しなければならない。この装備は、イベント期間中、水の上にいる間は常に使用しなければならない。個人用安全装備は、材料の品質を保証し、業界標準を満たしている公認の製造業者のものでなければならない。製造業者が推奨または承認していない方法で、装備の構造、形状、構成を変更してはならない。

1) ラフトボート

- A) 使用ボートの大きさは全長 3.9m以上、全幅 1.6m以上とする。

参考：スーパーピューマ[AIRE] 長さ：399cm、幅：1.73cm
コロラド[gumotex] 長さ：450cm、幅：160cm

- B) 板、ポール等を装着し、全長、全幅を故意に変更することは認められない。
- C) 足や体を固定する目的でのロープ、紐の設置は認められない。
- D) カメラ設置を目的としたポールの取り付けは、安全面に関して自己責任で使用を認めるものとする。
- E) ボートは各チームの持ち込みとする。用意できない場合、レンタルボート(有料)の利用が可能。

2) スローバッグの所持

- A) 出場チームは、1本以上のスローバッグを所持しなければならない。スタート時にスローバッグを所持していない場合のスタートは認められない。

3) ライフジャケット・ヘルメット・パドルの基準

- A) ホワイトウォーター用に設計されたライフジャケットが望ましい。劣化が激しく浮力がないと判断されたライフジャケットは使用できない。ライフジャケットを正しく着用していないチームは出場できない。
- B) ホワイトウォーター用に設計されたヘルメットが望ましい。ヘルメットを着用していないチームは出場できない。
- C) Tグリップのあるラフティング用パドルが望ましい。予備パドルの積載は認められる。

4) 自然の川を利用した競技場では、すべての種目において、少なくとも1人のチームメンバーが、以下の最低限のチーム安全装備を携行することが義務付けられている。

- A) フリップライン
- B) スローバッグ
- C) リバーナイフ。リバーナイフは片手で操作できるようにする。
- D) ホイッスル。水に濡れた場合でも音が出るもの。
- E) 外部と連絡ができる携帯電話

5) 主催者はイベントに登録した競技者が、セルフレスキューの能力を持っていることの証明を要求することができる。競技者及びチームは、以下の最低限のセルフレスキューの知識と実演技術を持っていないといけない。

- A) フリップしたラフトを人の手を借りずに素早く適正な状態にすること。
- B) 介助なしでラフトに乗り込むこと。
- C) ホワイトウォーターでの適切な泳ぎ方（ホワイトウォーター フローティング

ポジション、オフエンシブスイム)。

D) スローバッグの適切な使用（投げ方、受け取り方）。

E) ラフトレースに伴うすべてのリスクの認識と理解。

6) 競技者は、岸辺や水上で安全に行動する責任がある。各競技者は、自分自身の安全だけでなく、チームや他のイベント参加者の安全を意識して、安全に行動することが求められる。競技者は、自分の個人的な装備、ラフトボート内の姿勢、ラフトボート内の安全を維持することが求められる。例えば、鋭利なエッジ、緩んだロープ、ループ、開いたカラビナなど、周囲の潜在的な危険性を排除することが求められる。

7) レスキュースタッフは、安全要件を満たすために、競技者の個人装備、ラフト内の姿勢、セットアップの調整を要求する権利があります。レスキュースタッフの指示や要求に従わなかった場合、罰則や競技・イベントから失格になることがある。

8) レースディレクターおよびセーフティディレクターは、安全性向上のために必要と考えられる場合、上記の規則を変更する権利を有する。そのような変更は事前に発表されなければならない。

(5) 競技中の写真、ビデオ撮影

1) 大会期間中を撮影した写真、ビデオ等には、参加者個人の意思の確認なく使用することを固く禁じ、個人的記録以外の目的に使用する際は、主催者の許可を必要とする。ただし、主催者の認める個人または報道機関についてはその限りではない。

2) 主催者が撮影する大会期間中の写真、ビデオ等を主催者が大会の目的に使用する場合に限り参加者はその肖像権を放棄する。

(6) その他

【競技要領】

競技の内容については水量、ボート数等によって変更する可能性がある。

表彰

綱引き競技、1～3位を表彰。

静水スラローム競技、1～3位を表彰。

ロングスプリント、クロスレース競技は各ポイントの合計で順位を決定。1～3位を表彰。

各競技ポイント

ロングスプリント	100ポイント
クロスレース	200ポイント

順位ごとの競技ポイント

1位100%、2位92%、3位86%、4位82%、5位79%、6位76%
以下3%ずつ減。

※各競技の競技ポイントは、同一カテゴリー内での順位によって決定する。

(1) 綱引き

ボート2艇をロープで繋ぎ、着岸させた状態からスタート。競技時間は20秒。
組み合わせ、競技時間は出場ボート数等により変更する可能性がある。

(2) 静水スラローム

2本1採用。ゲートの不通過、接触はペナルティを課す。

(3) ロングスプリント

出場チーム全て同カテゴリーとして行う。スタート方法は一艇ずつ。スタート、フィニッシュは光電管を設置。降下中設置された対象物（ゲート等）を回る。不通過30秒、接触5秒のペナルティを課す。ゴールはフィニッシュラインをボートの一部が通過した時とする。

(4) クロスレース

出場チーム全て同カテゴリーとして行う。スタート方法は複数ボートによる同時スタートを予定。水量などのコンディションによって大会主催者が決定。フライングはペナルティを課す。設置された対象物（ブイ、ゲート等）を回る、または触る。ゴールはフィニッシュラインをボートの一部が通過した時とする。出艇の組み合わせは抽選で決定。

(5) ダウンリバー

参加自由。水量などのコンディションによって大会主催者がスタート、ゴール時間を設定。各ボートでカバーをしつつ下る。チーム内に最低1名リバーガイドを含めること。もしくは、競技コースを安全に航行する技能がある者を含めること。なお、大会主催者が安全な航行ができないと判断した場合には競技への参加が制限されることもある。

(6) 失格

大会期間中、大会の主旨に著しく反する行為が認められた場合は大会主催者の判断で失格とする。

(7) 水位規定

各種目の競技コースは安全に進行することを考慮し、それぞれ次のように規定する。水位については目安とするが、天候の予測や水位など総合的に判断し、セーフティーディレクター、レースディレクター、大会主催者が協議し最終決定する。その場合には下記の内容から変更する場合もある。

1) 豊永：～0.8m

- 綱引き 池田湖
- 静水スラローム 池田湖
- ロングスプリント 堂床～WEST-WEST
- クロスレース WEST-WEST 前
- ダウンリバー コースは水量等を考慮し策定

2) パターン① 豊永：0.81～1.7m

- 綱引き 池田湖
- 静水スラローム 池田湖
- ロング スプリント 堂床～WEST-WEST
- クロスレース WEST-WEST 前
- ダウンリバー コースは水量等を考慮し策定

3) 豊永：1.71m～

- 綱引き 池田湖
- 静水スラローム 池田湖
- クロスレース 池田湖
- ダウンリバー 川口～池田湖（ゴール地点は水量等を考慮し策定）

各コースでの実施上限水量に関しては、選手ならびにスタッフの安全面を考慮し、実施が困難であると判断される場合はその競技は中止とする。

(7) その他